

活動を行う際の課題

- ・「学び」の後の活動する場が見つかりづらい
- ・学んだことを生かす場がない
- ・講座と卒業後のコミュニティ
- ・高齢者が気軽に集まれる場所がない

活動を実施する側の課題

- ・講座と地域の関わり
- ・講座と社会の関わり
- ・団体の世話人のなり手がいない
- ・広範囲で団体を作ると財政的に苦しい
- ・活動を継続させていくことに色々な課題

活動に入る際（入り口）の課題

- ・「これだ！」という活動内容に出会えない
- ・一緒に活動するメンバー探し
- ・既存のNPOは入りづらそう

POINT

- ★情報が集まる場を作る
- ★世代別に情報の発信・受信・有効活用

- ・講座修了までにグループ化
- ・グループの目的外でも仲間づくり
- ・受講生の情報の名簿化
- ・インターネットの活用
- ・関係者にヒントもらう
- ・欲しい人材の情報を集め発信

POINT

- ★常日頃からの横のつながり・コミュニケーションづくり

- ・人材養成・講座等の後継者づくり
- ・自治体内外の大学・自治体との話合い
- ・常日頃のコミュニケーション
→コンセンサスづくり

POINT

- ★情報を集める場を作り発信、メディアを活用して無関心層にアピール

- ・意思があるならまず「やってみる」
- ・インターネットを活用した情報提供
- ・仲間・希望者を集める
- ・メンバー探し等の情報を集める

シニアの「学び」を
様々な分野での
活躍につなげてい
くために

工夫・解決策

- ・お互いに教え合う
- ・活動する中で能力を養う

- ・参加者が参加者を連れてくる
 - ・毎日どこかのグループが講演などを行っている
- 学ぶ機会があることを伝える

課題

- 【体力・能力】
- ・記憶力の低下
 - ・個人の能力にばらつきがある

- 【意欲・モチベーション】
- ・学ぶ動機に乏しい
 - ・後継人材の不足
 - ・60代の参加が少ない
 - ・男性の参加が少ない

- 【収入】
- ・就業にこだわる人が多い

- 【機会・制度】
- ・活躍の場の見つけ方
 - ・社会全体の問題として捉えているか？

- ・講座の講師として収入も得る

- 【ネットワーク・コミュニケーション】
- ・学んだ人の同窓会意識が強く、時に排他的
 - ・地位のひっかかり
 - ・地域での横のつながりが不足

- ・招きが必要
- ・場がシニアを受け入れる
- ・行政が責任逃れしない
- ・つながるインフラをつくる

- ・信頼関係をつくる
- ・長い説教を慎む
- ・若い世代を教育する
- ・老人大学等で就労の倫理を教える
- ・意識のリセット
- ・コミュニケーション能力の向上

課題

- ・地域の特色を生かした、今までにない「はたらく」とはどんなものか？
- ・地域コミュニティを身近に感じる場(づくり)の要素は？
- ・届けたい、出てきて欲しい人に情報が届かない
- ・地域支援・学校支援の講師依頼に偏りがある
- ・子供の健全育成活動の支援が希薄である
- ・地域の生涯学習活動をどのように組織化・推進したらいいか
- ・今の大学生に生涯学習活動に対する考え方をどのように教えたらいいか
- ・高齢社会に対する無知
→団体で取り組む必要性
- ・町内会の活性化。地元で長く住む「先住民」と、集合住宅などに移り住んできた「新住人」の円滑なコミュニケーション

子供・若者への関わり

情報の届け方

関わり場のづくり

解決策

- ①きっかけづくり
文化祭
何人かが集まって発表する自治会の学びプログラム
- ②PR－出かけて相手と話す
口コミ・ホームページ
地域の回覧板
防災・セーフティのテーマから出会いの機会
学生の巻き込み
ボランティアで社会と関わり
→知る機会から活動へ
- ③相手の反応を得る
- ④反応の連鎖

グループC

<p>【社会の仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が望んでいるのは支援より支え合いでは？ ・橋渡しの仕組み(福祉と健康) ・豊富な知識・経験・特技・趣味を生かす工夫 →コミュニティ参加の勇気ある一歩 	<p>【活躍と学びの場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理せず参加出来る仕掛け、特に男性 ・一人一人に合った活躍の場をどう用意するか ・本当の意味で尊敬されるシニアの役割を見極めたい ・学びの「場・時間・目的」づくり 	<p>【学校との連携・教育の場での交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座・シニア大学院→学ぶ場の提供 ・子供たちの日本語力を上げる為にシニアの方々が講師になって日本語を教えるは ・大学(学生)と地域のシニアの協働 ・相互に学び、地域に貢献する仕組み作り ・子供・若い世代とシニアの交流を図ること 	
<p>【定年前からできること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈リタイア〉 →再学習・ネットワーク →起業やビジネス →社会貢献〈ボランティア〉 	<p>【シニアならではの仕事・有償ボランティア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアにしかできないことがあるのでは ・継続性を考えて、有償ボランティアとして+αを考えたい、差別化 	<p>【関心を持ってもらう・情報を伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心が無い人に関心を持ってもらう仕組み ・高齢者を外へ連れ出すために、まずコミュニケーションと言われるが、他には？ ・退職男性に地域活動へ参加してもらうには？ 	<p>【能力の活用と仕組み・人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役時代に獲得したスキルを無駄にしない工夫 ・シニアの知識と経験を、起業・ビジネスに結びつけるコーディネーター



課題

① 情報

- ・情報伝達/連携不足
- ・地域に自分の職能を生かせる企業がない
- ・市内のグループとの連携
- ・情報発信・人集め
- ・学びの成果を発表する機会が無い

② 仲間

- ・ボランティアを一緒にする仲間がいらない
- ・踏み出す勇気ーきっかけ
- ・独居老人等で人見知りの方もいる
- ・働きたいシニアとボランティア感覚のシニアの考え方をどう一つにするか

③ 行政

- ・NPOに対する行政のスタンスが、下請・コストダウン
- ・NPO法人の運営(現在は支援あり)
- ・行政の巻き込み方が下手
- ・元気高齢者から要介護高齢者へのシフト

解決策

- ★地域の集会場・サロンを住民主体で活用
- ・ホームページの作成
- ・寄り合い場の開放
- ・仲間とつながると情報が広がる

- ★共通点を見つける(食べる・笑う)
- ・ボランティア同士の交流を増やす
- ・外出支援の為に必要な送迎
- ・仲間づくりは口コミが一番確実
- ・他世代交流

- ★行政と当事者を橋渡しするキーパーソン
- ・ニーズに応じた相性
- ・どの課を訪ねたらよいかわかりにくい、ポイントを絞ってアタック
- ・シニアの社会貢献のモデルを行政で促進

コミュニケーション

- ・地域の中でコミュニケーションを取れない男性
- ・高齢者の世代内交流が難しい
- ・企業を退職して地域デビューできない
- ・人からほめられる機会

高齢者の学習目的

- ・生涯学習と高齢者学習は同じなのか
- ・趣味的なものだけではない
- ・就労・趣味・教養に関する興味は高いが、地域活動への興味は一部のみに限定
- ・いじめ問題解決のため、子育ての必要とそのためシニア力と学習

多様な学習目的

情報

- ・やることがある状態をつくる
- ・自分の「居場所」が欲しい
- ・習得した知識を社会貢献として発信する仕組みが弱い
- ・「学び」の場がどこにあるかわからない
- ・地域の生涯学習・ボランティアの情報が一元化されていない
- ・講座に来て欲しい人ほど来ない

ICT

まちづくり

- ・コーディネータ力を学び、民主的なまちづくり
- ・都市設計
- ・環境そのものが健康を作るまちづくり
- ・皆が生産年齢人口になる
- ・医療費が多く財政を圧迫

健康を目指したまちづくり

有償活動のシステムが中々構築されない

新たな仕組みづくり

意識変革

- ・年齢による区分は必要か
→加齢意識が老化を呼ぶ
- ・意識を変えるギアチェンジ
- ・活動の継続が困難

行動に結びついた意識変革

シニア力

グループF

コーディネーターの重要性

人集め

受講生

- ・企画イベントに中々参加しない
- ・デリケートなテーマの告知・集客
- ・地域活動支援者育成をやっているが、参加者が少ない



- ・町会や自治会と連携
- ・ネットワークの充実

リーダー

- ・教える側の高齢化
- ・生涯学習大学の見直しにおけるコーディネーターの役割
- ・モデル地域の取得(県庁の説得)



- ・事務局スタッフ
- ・業務委託

お金

- ・持ち出し費用が多い
- ・助成金や行政の支援がほしい



- ・中間支援業務に対する助成金をつくる

もの

- ・施設の不足、場所取り争い
- ・場所(土地)の選定
- ・地権



- ・行政・NPOなど第三者が仲介
- ・空き店舗や空き家の活用

情報

- ・「生涯学習」の範囲・定義
- ・情報の選別
- ・助成金の情報の入手方法
- ・情報の届け方
- ・申請書を書く人がいない



- ・有償コーディネーター
- ・有償ボランティアの登用
- ・情報発信を多く
- ・ホームページの更新

グループH

問題意識・課題

組織

- ・地域内の既存の組織との関わり
- ・次世代への継続性

参加者

- ・男性のプライドが高く、中々協調性が取れない
- ・メリット・デメリットを考えて先に進むことが出来ない
- ・体力が続かない

本人 (内容)

- ・フォローアップのための自身のスキルアップ
- ・内容を時代に合わせて進める

集客

- ・団塊の世代は今どこで何をしているのか
- ・どのように関わりを持つか
- ・公民館活動の発表の場

提案・対策

- ・他の組織とのコラボ
- ・単体だけで発想しない
- ・コーディネーター役と行政の関係

- ・意識変革の講座
- ・草の根で啓発

- ・出前講座

- ・多世代で楽しめるコンテンツ
- ・有償ボランティア
- ・続けるための意識づくり・運営

ガンバレ
シニア

◎学ぶ＝お金がかかる！

★低価格・低サービスで良いので
講座を始めたい！



市民講座・市民大学への参画
半学半教・結/講方式
学んだ分活動する学習クーポン
家族を巻き込んだ学び

◎これが「7割」

★何を学んで良いかわからない！
★外に出られない人の社会参加は？



押しかけ講座・温泉講座
65(60)歳義務教育
自治会と交流・地域の伝統行事参加
シニアライフコーディネーターの育成
楽しげなPR
病院と協力できないか？

グループI

◎ニーズの把握が不十分！

★参加者のニーズと企画の
ねらいが違う

★企画者「してあげる」

★内容・教え方がつまらない



このゆびとまれ講座
シニア自身による企画
集まらなかつたらやめる勇気
「これをやりたい」人を大切に

◎「老人クラブ」になる...

★老人扱いをやめたい

★年齢不問社会の実現

★活動する人の固定化

→敬語禁止

昔語り禁止・年齢制限禁止

◎生きがい・役割

★学んだことのフィードバックが
ない

→教えたこと募集・
モデルづくり

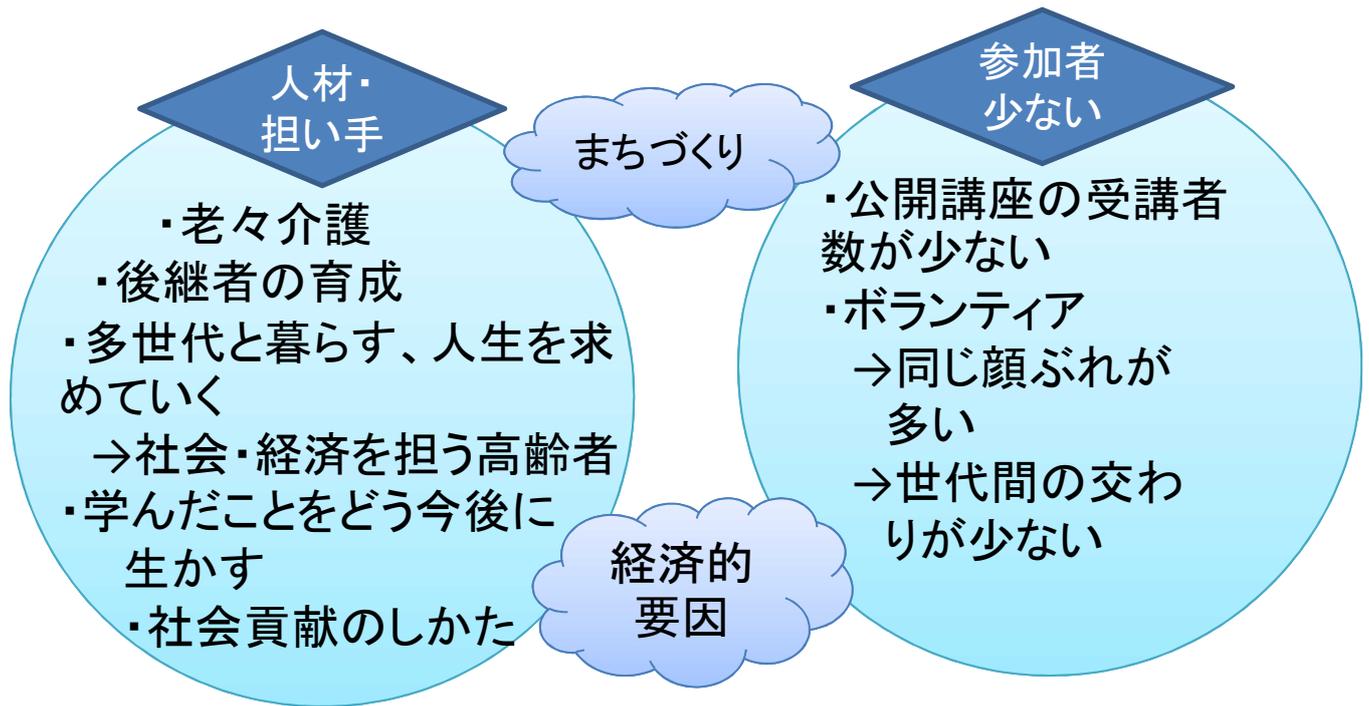
◎学んだことを生かせる場

★役所内のつながりが薄い

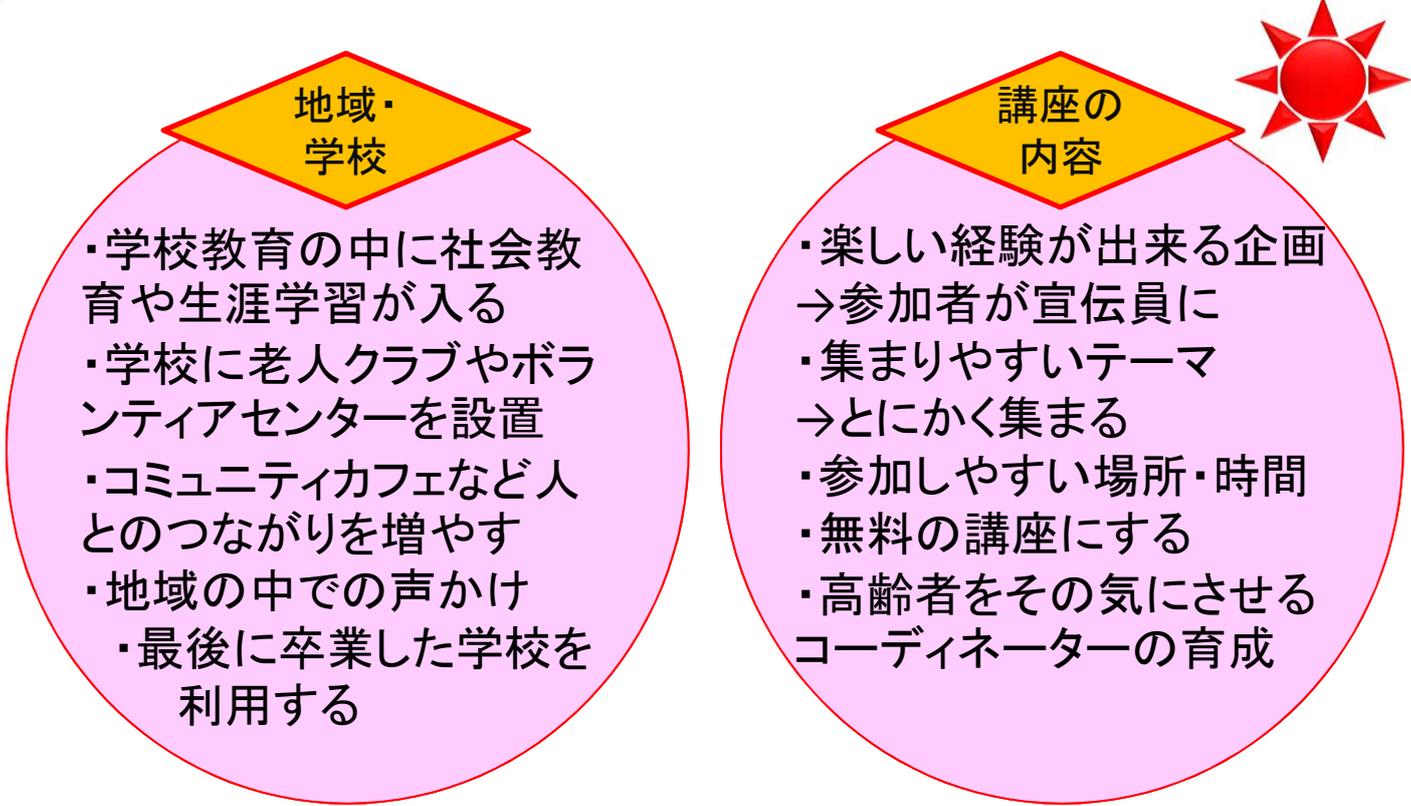
★活動につなげる前提のプログラム
が少ない

→人手が必要な所を拾う

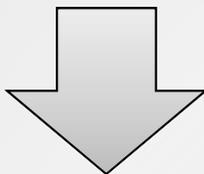
「学んだことを生かす」テーマで始め
ない



どうやって担い手・参加者を増やすか？



- ・何かしたいけどやり方がわからない
- ・隣近所の付き合いが不足(いざというとき...)
- ・何か業をやりたいけど、大きな負担・責任は負いたくない



- ★定年退職したシニアの社会貢献活動への道筋をどうつけるか？
 - ★ビジネスで生きてきた人間のマインドリセットの方法は？
 - ★長寿社会への誘い方について・ニーズをどう探るか
 - ★高齢社会での「学び」と「活用」の仕方について
 - ★大学が求められていること
-

**社会貢献活動への無関心層7割！
どう働きかけたらいいの？！**

若手のうちに企業のCSR
の一環で社会教育活動

支援と自主性

ヒエラルキーからフラットへ

参加者一人一人が周り
に伝える

連続性を社会につくる

グループK

◎新規参入の壁◎

- ・参加人数が増えない
- ・新しい高齢者の会員が出てこない
- ・郷土料理など学校で教えるが、年々なり手がなくなる

◎関心のない層◎

- ・高齢化する団地
 - ・図書館にいる男性高齢者
 - ・どうすれば活動に出てくる
- 広報(行政・メディア・口コミ)
→定年前に、定年後の生活を学ぶ機会
→高齢者の中間組織
→テーマなし、いつでもおしゃべりできる場づくり

グループL

◎ハード◎

- ・コミュニティを作るための場所がない
- ・団地の建て替え(高齢者の健康、災害時の補助)

◎中身◎

- ・地域のニーズとの相違
- ・文系大学では就業に直結するプログラムを作りにくい
- ・農村部の高齢者に対する学習

- シニア講師(職業)
→地域の特性を生かす
→大学間連携+ネット配信
→参加者を教育者に育てるプログラム

◎連携◎

- ・大学間の連携はできているか
- ・地方行政との連携はできているか
- ・シニアだけでなく幅広い年齢の関わり
- ・大学と高齢者と学生のネットワーク

- 大学・学生と提携
→学習後は小さい団体に
→博物館のボランティア(工作教室)
→学校で教える出前講座
→シニア向け講座を学生が手伝う